

いつもお世話になります。首相交代でにわかに脚光を浴びた「どじょう」。「柳の下にいつも泥鰌（どじょう）はいない」といえば、偶然の幸運など何度も起きるものではないという例えです。一度うまくいったからといって、同じやり方でまた成功するとは限りません。「チャレンジ、そしてまたチャレンジ！」の連続ですね。

痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



知っとこ! 「税務のマメ知識」

【決算が近づいてもできる節税対策とは?】

決算が近づいてもできる節税対策のひとつに、「短期前払費用の特例」という制度があります。通常では、費用の支払いをしてもサービスの提供を受けていない来期分の「前払費用」については、当期の経費に算入することができません。

しかし、一定の条件を満たせば当期の経費とすることができます。その条件とは、

「契約によって継続的にサービス提供を受けるために支出したものであること」

「期間が1年以内であること」「支払った金額を継続してその事業年度の経費にしていること」になります。具体的に適用できるものについては、地代家賃、システム装置などのリース料、保険料、借入利息、会費などが挙げられます。例えば、月額10万円の事務所家賃について短期前払費用の特例を利用する場合には、決算月などに1年間分の事務所家賃を前払いする契約に変更し、1年分の家賃120万円を支払えば経費として算入することができます。なお、借入金を預金や有価証券などに運用する場合のその借入金の「支払利息」のように、収益と対応させる必要があるものについては、たとえ1年以内の短期前払費用であっても支払い時点で経費に算入することは認められません。また、期間限定の雑誌広告代など「継続的なサービス提供を受けるものでない」場合も、特例が適用されないことがありますので注意が必要です。



今月のあなたの運勢

鑑定: 妙慎

A型	B型	O型	AB型
先月までの忙しさから今月は少々パワーダウンしそうです。十分な睡眠時間を確保し、無理せず進みましょう!	新しいプランに着手するのに良い月です。また、新規顧客の開拓も吉です。敏速な行動が更に吉運を高めます!	面倒な問題に遭遇しそうですが憂鬱にならず勇気を出して解決を! 漢方系のお茶を飲むと元気の源となります。	交際運が活発な今月は人の集まる場所にツキがあります。良い人脈を得るチャンスですから足を運びましょう!

社員のひとこと日記



先月、厚生労働省より厚生年金支給開始年齢の引き上げ案の提示がありました。既に65歳支給開始に段階的に引き上げられているものを、68歳～70歳支給開始となる内容の改正案も。あくまで、まだ議論に入った段階だ。とのことですが、財源が乏しく、高齢者と現役世代とのバランスが悪い現状と将来を考えると、希望的観測で楽観視するわけにはいかないと思います。

定年の引上げ、廃止、高齢者の雇用問題等を同時進行して考えなければならない問題ですが、現状としては、定年の引上げ、廃止を導入している企業は少ないようです。となれば、60歳から最悪70歳までの10年間の生活資金を蓄えなくてはなりません。

1ヶ月20万円で計算すると2400万円です。

定年退職後の第二の人生何をしようか？ どころの話ではなくなってしまいます。

公的年金だけを頼りにするわけにはいかない状況です。

個人年金等で空白期間の備えの見直しを考えたほうがいいのかもかもしれません。

荒川 和道



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【「美味しい鍋」は社長のさじ加減ひとつ】

鍋の美味しい季節になりました。鍋と聞いて俄然張り切るのが「鍋奉行」です。食材、ダシの取り方、具を入れる順番や味付け、火加減、食べるタイミングまで世話を焼き、すべてにひと言モノ申さないと気がすまない性質(タチ)の人を誰が「鍋奉行」と名付けたのか知りませんが、言い得て妙なネーミングです。

「確かにいるな～。そういう人！」と笑っているあなた、鍋のない所で鍋奉行になっていませんか。

口では「任せたぞ」と言いながら、結局は1から10まで指示してしまう。社員の仕事に口を出しすぎる社長は、潜在的な鍋奉行かもしれません。経験が浅いから心配で任せてはおけない。何かあったら困るからいちいち目を光らせる。それはその通りだとして、考えてみたいのは「口の出し方」です。

人間の脳は不思議なもので、手をかけすぎるとスキルはアップしても意欲は低下するようにできているそうです。社員を事細かくチェックして世話を焼けば「美味しい鍋」になると思いきや、仕事の場合そうはいかないのです。まずは任せてみる。その一方で仕事を進めながらやり方を教えていくというさじ加減。仕切りたがりの鍋奉行にはストレスかもしれませんが、人を育てるとはそういうことでしょう。



この夏、あるお祭りでもこしの音頭をとる人を見て外国人が「ナベブギョウ！」と叫びました。その外国人は、「先頭に立ってみんなを仕切っている人＝鍋奉行」だと思ったのでしょうか。鍋奉行も世界的になったものです。

みこしの音頭をとるのは社長ですが、鍋奉行になってはいけません。フランスの詩人アラゴンはこう言っています。「教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸に刻むこと」。社員の仕事に口を出す回数を減らし、その分、熱く希望を語って

みませんか。社員に明日をイメージさせるのは社長の大事な仕事です。

希望のもとに明日をイメージできる社員が増えれば、いずれ「美味しい鍋」ができることでしょう。

